

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	当ホームでは、多様なボランティアの受け入れを長年行っているが、傾聴ボランティア等日常的に気軽に施設の訪問ができるよう啓発活動を行っていききたい。	地域や関係機関等へボランティアへの理解を図るため、情報のネットワークを築き積極的な啓発活動を行っていく。	市内のグループホーム連絡会議、運営推進委員会、認知症カフェ等の場において、ボランティアの紹介や情報収集を行い情報を共有していく。また、施設の広報誌を通じてボランティアを育成する。	12ヶ月
2	48	心身の重度化によりレクリエーションや生活リハビリ等に対して意欲のない利用者がある。	利用者全員が個々の心身機能維持が図れるよう、メンタル面の状況を把握しながら活動的な生活が送れる。	<ul style="list-style-type: none"> * 個人の嗜好や情緒面・ADLに合わせたレクリエーションを企画する。 * グループワークでは、ADLの低い利用者に対して優先的に職員が付き添ってサポートする。 * モニタリングにおいては、結果だけでなく企画や職員のサポート等のプロセスにも視点をおいて評価を行う。 	12ヶ月
3	30 31	利用者の重度化・高齢化に伴い、体調不安定や転倒危険のある利用者が増えている。	日々の状態観察と生活環境の整備により体調の安定と転倒を防止する。	<ul style="list-style-type: none"> * 毎日のバイタルチェックと観察により、僅かな変化も見逃さず、看護師や医師へ連絡相談を行い、素早い対応に努める。 * 日々の心身状況観察とアセスメントにより、その人に応じた環境整備(手すり、クッション材、センサーチャイム等の設置)を行い、抑制を行う事なく安全に過せる環境作りに努めるとともに優しい付添介護に努める。 	12ヶ月
4					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。